

□成蹊大学体育会 OBOG 連合会発足しました。

「成蹊大学体育会OBOG会長連絡協議会」は、成蹊大学の体育会各部のさらなる活躍・発展につながる有益な支援活動を進めていくことを目的として、OBOG会有志が発起人となり、2014年4月に創設しました。連絡協議会を創設した契機・背景には、2012年に成蹊学園が創立100周年という区切りを迎えて、OBOG会長の中で体育会の支援を強化していこうという機運が高まっていたこと、また同年12月に体育会空手部の不祥事が発生し、体育会の安全管理のあり方が喫緊の重要課題となっていた時期であったことがあります。

これまでの連絡協議会は、約40団体の体育会OB OG会の実態把握を手掛かりに、会報の定期発行や総会の開催等により、OBOG会相互の情報の共有化や、関係の構築などを進めました。また、大学学生部と連携を図っていくことにより、コロナ禍での運動部の活動に関する大学の方針を、タイムリーに各OBOG会へ情報提供することや、学生部との共催による安全管理セミナーを実施するなど、より実効性のある活動につなげていきました。

今年の4月に成蹊大学は、大学スポーツ協会(UNIVAS)に加盟し、体育会のさらなる発展と安全で安心な環境の構築を目指しており、各運動部のOBOG指導者の安全管理能力の向上も重要な課題となり、これまでの世話人が中心の組織を、より多くのOBOG会の協力の下で運営する組織に改め、令和5年11月5日の「連絡協議会」総会で「成蹊大学体育会OBOG連合会」への移行を決定しました。

これまで我々体育会ワンダーフォーゲル部 OBOG 会「石楠花会」は蹴球部やラグビーフットボール部のような順位を競う競技系クラブのOB会活動とは一線を画す親睦団体的存在でしたが、今後は大学唯一の山岳系クラブのOB会として、現役員への支援だけでなく、安全面での指導や大学への様々な要請や協力を行う団体として、大学学生部、他クラブBOG会との連携をより強くするために体育会OBOG連合会に加盟いたしました。 ☆体育会OBOG連合会発足総会、懇親会の詳細内容は<http://shakunage.main.jp/>にて確認ください

□令和5年度体育会ワンダーフォーゲル部夏合宿『大雪山』

自分を含めた幹部の数名から距離を歩けてアルプス系とはまた違った山を挑戦してみたい！という発言から始まった大雪縦走合宿、調べていけばいくほど交通の便やエキノコックス等々慣れない課題が多く見つけ計画にとっても苦労した。集合1つとっても大学生の給料では痛い出費であり時間や場所そこからの移動に難儀することとなった。

令和5年度体育会ワンダーフォーゲル部主将 深見英太郎

1日目9月11日(旭岳ビジターセンター発白雲岳避難小屋着)

駐車場で車中泊していた人たちも旭岳アタックの面々だったようで5時30を過ぎるとエンジンをロープウェイのあるビジターセンターまで向かうためエンジンに火を入れる車がちらほらといた。僕たちもその中に紛れビジターセンターへ向かった。ロープウェイの乗車券を買い、いざ乗車した。同じロープウェイに乗っていた登山家の方と少々大雪の話をしていたらすぐに姿見駅に到着した。そこには麓でも壮大に見えた旭岳がより大きく見えた。各々、ベルトを締めなおしコンパスとGPSで読図を行ったら深見→川嶋→島田→浅川の順で隊列を組み出発した。旭岳の登りは植生がほとんどなく太陽が照り付けておりとても暑く、北海道とは思えないほど汗をかいた。その後も計画書通りに進み9時30には旭

岳に登頂した。体感温度が高かったことや勾配が急だったこともあり、皆心拍が高く発汗量もおおかった。しかし、笑顔いつもの元気は全く消えておらず楽しそうにしていた。少し休憩し出発するととても急な下り坂が待っており滑りやすい地面も相まってとても苦労した。途中島田が何度か尻もちをついていたが誰も怪我無くスムーズに降りることができた。ここから間宮岳まで昼飯以外ではほぼ休憩なしで歩いたが12時を過ぎたあたりから、ガスがではじめ寒く、半そでではいられないほどとなった。ここから間宮岳、松田岳、北海岳、白雲岳と通過したのだがガスがひどかった上、ほぼ平坦だったのでただただ長かったとしか言いようがない。歩いても歩いても景色が変わらずそれでも楽しそうにしていた4人は生粋の山好きなんだろうなと思いながら歩いた。気づいたら白雲岳分岐に到着しており宿泊予定地の避難小屋まで目前と迫っていた。そしてすこし下ったところにとってもきれいな二階建ての避難小屋が見えた。この日は、非常に風が強くテントを張る余裕がなかった上に他の利用客がほとんどいなかったため避難小屋の中を利用させてもらった。小屋の管理人の方にクマが最近よく出るという話とすべての水場が枯れかけていると聞き心配になりながら水を汲み入った。話聞いた通り、水はチョロチョロほどではないが枯れかけており



組むのに難儀した。そこからすべての水をろ過し夕食の支度と装備点検、次の日の読図を行い8時前には寝袋に入った。初日にして13キロほど歩いたので皆すんなりと寝ていた。

2日目9月12日(白雲岳避難小屋発ヒサゴ沼避難小屋着)

2日目9月12日(白雲岳避難小屋発ヒサゴ沼避難小屋着)

前日同様4時30起床したら小屋の窓からピュオオオオという音とザーっという雨の音が混じって聞こえ嫌な予感がした。そっと扉を開けると10m先の視界も怪しいほどのガスと雨だった。そんな中、前日のパスタとスープを食べて各々したくを終えたら雨が弱くなるタイミングを見計らって出発した。隊列は前日同様だ。少し歩いていると天気も良くなり視界も晴れそこには日本とは思えない絶景が広がっており皆、興奮と驚愕を隠せずにはいられなかった。そんな絶景の高根ヶ原を抜けるとまた曇りはじめ忠別沼につく頃には完全に太陽が見えなかった。また、植生も腰くらいの高さの草が増え場所によっては背丈ほどある笹もあった。夏ということもあり葉が生い茂り書き分けながらすすんだ。そうこうして歩いているとところどころにクマのフンが落ちており身近に危険があることを感じた。忠別岳につく頃にはすっかりガスも出て強風の中であった。そんな中でも忠別岳山頂いつも通り元気な仲間を見てそのタフさに感服した。それでも忠別岳山頂は風が強すぎたため昼休み予定の忠別岳避難小屋まで足取りを急いだ。小屋に続く分岐まで行きそこで昼をとることにした。川嶋と島田はコーヒーを引き浅川と僕で飯を作った。暖かい飯と飲み物で体を休めて片付けをしていたら突然の大雨が降り始め、急いでかたづけをして雨具を着用した。この大雨は朝よりもひどく、痛いと感じるレベルだった。大雨の中歩いていると雷の音も聞こえ始め背を低くしてなるべく素早く移



動した。また、視界も悪かったため常にコンパスと地図とGPSと格闘していた。ここにきてやっと隊列の中から弱音らしきものが聞こえてきたが振り返ると皆まっすぐとしたまなざしをしており心強く感じた。がれ場のような道や背丈まである藪の中を何度も進んでいるうちに下り基調の道になり遠くには氷瀑が見えヒサゴ沼が近づいてきたことがわかった。気温自体は10度ほどあり前情報よりは全然暖かったのにもかかわらず氷瀑もとても大きく不思議な気持ちになった。そこから下っていくうちにヒサゴ沼が見えた。ヒサゴ沼を遠目で観測しながら2時間ほど歩くとやっと湖畔に到着しまもなくヒサゴ沼避難小屋に到着した。濡れたものを干していると先程道を譲ってくれた山岳会の方々も到着して氷瀑についていろいろ教えていただいた。どうやらヒサゴ沼の水場は氷瀑の雪解け水の為エキノコックスの心配がなくそのままの飲めるそうだ。ヒサゴの水はこの登山の中で個人的に一番おいしかった。この日は15kmほどの行程であったうえ大雨ということもあり皆少し顔に疲れが出ていた。

3日目9月13日（ヒサゴ沼避難小屋発旭岳ビジターセンター）

最終日にしてこの日が一番格過酷であった。起床と同時に大雨であったうえ昨日からの大雨のせいか道がすべて川のようになっておりひざ下まで水が深いところも至る所にあった。昨日通った道を進み化雲岳のほうへ進むと寒さと雨で皆黙りこくっていた。化雲岳山頂でも珍しく誰もしゃべらず集合写真の顔も引きつっていた。ここからが過酷すぎた。ずっと藪の中で景色は見えない上に足元は雨のせいで川のようになっていた。そのうえ道中登山道が流され3メートルないくらいの崖になっており沢下りのような道をずっとすすんだ。また、ところどころ



にあった木道もコケのせいで非常に滑りやすくなり川嶋が何度コケており気が気でなかった。皆、疲れをしっかりと感じる足取りで、いつも以上に状況把握に気を使った。体中が雨と汗で濡れており皆さすがに疲れたのか静かになっていたがそれでもすべての行程をほぼ時間通りに行動できあと少しラストスパートというところまで来たので気を引き締めた。ラスト3kmほどになると急に天気が晴れだし気温もぐんぐんと上がってきた。少し暑く蒸し暑いと感じる中、天人峡温泉に到着した。天人峡温泉への到着はとてもあっけなくいきなり車道が出てきて登山道が終わっていた。すでにこの日16kmほど歩いており三日間で45kmほど歩いた我々はここにきてドッと疲れがわいてきた。一時間ほど待っているとタクシーがやってきて車がある旭岳ビジターに向かった。かれこれ40分ほど乗っていたはずだったが旭岳ビジターセンターまでは一瞬に感じた。

これにて我々三日間の大雪山行は終了という形になり旭川市街のホテルに泊まり地元のジンギスカン屋で打ち上げをした。なにはともあれ、我々の合宿はあとは帰るのみとなり少々望郷の念にも駆られたが、名残惜しい気持ちもいっぱいであった。

今回の合宿はとても人数が少なく同期しかいないという状況であったため、計画当初からこれでいいのかという疑問が多く残っていた。夏休みずっと実家に帰る者など少々仕方がないとおもいつつも惜しさも多く感じた。過酷な登山であり基本的に豪雨だったがそれでも北海道の大地を感じて壮大な風景もたくさん見られたので最高の登山であった。

☆令和5年度大雪山合宿報告全文と画像は <http://shakunage.main.jp/>にてお楽しみください

□『第46回成蹊桜祭』開催日変更のご案内

これまで4月第一週の日曜日に開催していました桜祭は、近年桜の開花が早まっていること、また学園の入学関連行事期間を避けることから日程が変更になり、次回第46回成蹊桜祭は2024年3月31日(日)の開催となることになりました。また今後は毎年3月最終日曜日に開催する予定です。

尚、第46回はコロナ前と同内容(制限なし)の通常開催となる予定との事で、石楠花会総会、桜祭 OGOB 現役交歓会も同日、同会場にて開催する予定です。

第46回成蹊桜祭： 令和6年3月31日(日)

桜祭石楠花会総会：同日 11:00~(予定)

桜祭 OGOB 現役交歓会：同日 13:00 (~予定)

久々の通常規模開催となります。教室や総会などの正式なご案内は追ってご案内いたしますが皆様のご出席をお待ち申し上げます。



□令和5年秋の虹芝寮 “熊にご注意！”

『踏高会幹事長の熊崎です。10/28-29の週末、錦秋の谷川岳で虹芝寮90周年祭をお祝いしてきました。参加者は5名と少人数ならではのきのこ鍋を囲んでの薪ストーブ談義は尽きることなし。O先輩が撮影したドローンによる空撮をお楽しみください。

また冬眠を前にした熊の出没情報も多数あり、虹芝寮の外壁にも生々しい爪痕が幾つかありましたので、近く入寮する方はくれぐれもお気を付けてください。』(踏高会熊崎幹事長より10.31石楠花会へのメール)



📷 ドローンを使用した空撮
初めての虹芝寮の俯瞰



樹上のクマ！ 🐾

🐾 生々しい傷跡

☆踏高会熊崎氏からの虹芝寮全画像は <http://shakunage.main.jp/>にてお楽しみください